市議会だより Obanazawa

131
令和８年11月１日発行

決算認定（９月定例会）




山形県産業科学館訪問


山形市市民防災センター訪問

シリーズ 地域のチカラ④

地域の子どもは　地域で育てる



二ツ森ゆう大学
学長 西塚（にしづか） 政悦（まさえつ）さん
インタビュー

第19回「やまがた未来賞」を受賞した二ツ森ゆう大学（玉野地区）にお話を伺いました

①二ツ森ゆう大学とはどのような大学ですか。

平成14年週休二日制が始まった時に、子どもたちに原体験を！と二ツ森ゆう大学として出発しました。以来「地域の子どもは地域で育てる」事を目標に、今年で25年目を迎えました。大学の名称は地域のシンボルである二ツ森にちなんでおり、「ゆう」の言葉に①遊び②友達③悠々（ゆとり）の３つの願いをこめています。

②活動はどんな内容ですか。

幼児・児童・生徒を対象に年間10回前後の体験活動を実施しています。５月の二ツ森女山登山、６月の寺町ブナ林散策、10月には学校行事にもなる芋煮会があります。他に夏の川遊びとバーベキュー・魚突き、流しそうめんやそば打ち、ピザ焼き教室、木工クラフトなど。冬は雪像つくりやそり滑り・雪板・スノーシューも取り入れていて、玉野の冬を楽しむ力を育てています。漬物を含めた食文化も伝えて行きたいです。


川遊び・BBQ

③「やまがた未来賞」受賞への思いと今後の抱負は。

大変光栄なことに、昨年10月に、これまでの活動が認められ、（公財）日本教育公務員弘済会山形支部主催の「やまがた未来賞」を受賞しました。私たちのテーマである「玉野の自然・歴史・文化・人々にふれあい学び、玉野が好きになる」が評価されました。これもひとえに、先輩方の長年のご苦労、地域の皆様のご協力、学校と公民館職員の献身的な支え、そしてスタッフの安全確保と指導への賜物と、心より感謝申し上げます。活動の参加者はスタッフ延べ100名を含め合計500名ほどになります。スタッフに本大学卒業生の若者が加わり、明るい話題となっています。

令和10年度には５つの小学校が１つに統合されますが、地域の良さを知る活動は、より重要になると考えます。今後も子ども達の健やかな成長を支え続けて行きます。


ピザ焼き

お詫びと訂正

130号の表紙キャプションで2025年とすべきところ2026年と表示しました。訂正しお詫びします。

あとがき

今回は、表紙、裏表紙に「やまがた未来賞」を受賞された二ツ森ゆう大学を掲載させていただきました。大学の名称には、①遊び、②友達、③ゆとり、が込められているとのことであります。この受賞は、創学以来25年もの間、子供たちを原体験を通して育まれた玉野地区の皆様の指導の賜であります。令和10年４月に小学校が一つに統合されます。各地区のこういった素晴らしい伝統・文化が絶えることなく、いつまでも続いていくことを切に願うものであります。

〔菅野　喜昭〕

発行責任者
議長　菅野　修一
市議会だより編集委員
委員長　安井　一義
副委員長　鈴木　清
委員　伊藤　浩
委員　和田　哲
委員　菅野　喜昭
委員　菅藤　昌己
委員　畑中　和恵

発行／山形県尾花沢市議会　編集／市議会だより編集委員会

9月 定例会（ていれいかい） 2026

令和７年度 決算 大切な税金 徹底してチェック

【定例会のあらまし】

９月定例会は９月７日から９月30日までの24日間会期とし開催されました。令和７年度決算の審議が行われ、全会一致で認定しました。

また、令和８年度補正予算６件、条例の設定３件、一般議案１件を審議し可決しました。

●一般会計及び特別会計歳入歳出決算

区分		予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引残額
一般会計		204億　416万円	199億　854万円	191億5,638万円	7億5,216万円
特別会計	国民健康保険事業勘定	19億7,000万円	20億3,137万円	19億1,067万円	1億2,070万円
	中央診療所施設勘定	3億9,271万円	3億8,080万円	3億3,975万円	4,106万円
	介護保険	20億5,890万円	20億2,758万円	19億7,452万円	5,306万円
	後期高齢者医療保険	3億　321万円	3億　695万円	2億9,563万円	1,132万円
	小計	47億2,482万円	47億4,670万円	45億2,057万円	2億2,614万円
合計		251億2,898万円	246億5,524万円	236億7,695万円	9億7,829万円

※一般会計及び特別会計の予算現額の総額251億2,898万円に対する決算総額は、歳入決算額246億5,524万円（98.1％）、歳出決算額236億7,695万円（94.2％）である。

●公営企業会計

区分		簡易水道事業会計			農業集落排水事業会計		
		予算額	決算額	増減	予算額	決算額	増減
収益的収支	収入	2億5,706万円	2億5,416万円	△　290万円	7,549万円	7,556万円	7万円
	支出	2億5,706万円	2億4,093万円	1,613万円	7,549万円	7,146万円	404万円
資本的収支	収入	1億6,638万円	1億2,731万円	△3,907万円	6,085万円	4,996万円	△1,089万円
	支出	1億6,638万円	1億6,082万円	556万円	6,088万円	5,974万円	113万円

※収益的収支と資本的収支は、公営企業会計において、お金の使い道を「現在のため」と「将来のため」に分けて管理する仕組みです。収益的収支の収入は、利用料金などが該当します。支出は、人件費や維持管理費などが含まれます。資本的収支とは、長く使うものの取引です。収入には、企業債や補助金などが、支出には工事請負費や企業債償還金などが該当します。

次は決算特別委員会 総括質疑

財政状況（普通会計）　財務諸比率の推移

項目＼年度	令和７年度	令和６年度	令和５年度	令和４年度	令和３年度	説明
財政力指数	0.27	0.28	0.28	0.28	0.29	数値が１に近く１を超えるほど財源に余裕がある。
経常収支比率	91.5％	90.1％	89.8％	92.9％	87.7％	財政構造の良否及び弾力性を示すものとして用いられる。80％を超えると硬直性が強いと考えられる。
実質公債費比率	11.2％	10.3％	9.0％	8.1％	7.1％	公債費による財政負担の程度を示すもので、元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率。

※財政力指数は、前年度より0.01ポイント低下、経常収支比率は、前年度より1.4ポイント上昇し、実質公債費比率、0.9ポイント上昇している。令和3年度と比較し、財政力指数は、0.02ポイント低下、経常収支比率は３.8％上昇し実質公債費比率は、4.1ポイント上昇している。

各会計の相互間繰入、繰出表

会計別		繰入額（a）	繰出金（b）	差引額（a）－（b）
一般会計		2,868万円	7億6,347万円	△7億3,479万円
特別会計	国民健康保険事業勘定	1億7,463万円	710万円	1億6,752万円
	中央診療所施設勘定	2億　930万円	389万円	2億　541万円
	介護保険	3億　611万円	1,826万円	2億8,784万円
	後期高齢者医療保険	7,662万円	260万円	7,401万円
	小計	7億6,664万円	3,186万円	7億3,479万円
合計		7億9,533万円	7億9,533万円	0円

※一般会計から、各特別会計へ７億3,479万円を繰り出している。特別会計では、一般会計から同額を繰り入れしている。

総括質疑

決算特別委員長（菅藤昌己）は役職の立場上質疑できません。

令和7年度をこまかくチェック！

敬老会補助金

【青野隆一】

Q 一人当たり1500円の補助金では、徳良湖温泉などで敬老会を開催している地区が年々減ってきている。増額する考えはないか。

A 39の登録団体中22団体は景品だけの配布となっている。補助金の見直しについては、物価高騰や人手不足などを考慮して前向きに検討したい。



市民税収入の増額

【伊藤　浩】

Q 7年度の収入済額が前年対比で約1億991万円（18・3％）の増となっている。このうち米価のアップなど、農業所得の向上による分はどの位か。

A 昨年度の農業所得の課税対象額は約18億7300万円であり、前年比で23％の増となった。これを受けて市民税に占める割合も約5％から10％に増加した。



移動市役所導入事業

【鈴木由美子】

Q 導入費は約3000万円。国の補助を受けても約1200万円の負担があった。年間経費は約133万円。有効活用が必要では。

A 今後の課題として遠隔診療や期日前投票所など、前向きに検討していく。



生活保護事業

【鈴木　清】

Q 生活保護の相談・申請・受給の件数は、何世帯何名か。

A 順番に、7・6・5件、41世帯46名である。

Q 生活保護は憲法25条「全て国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあることから、もっと周知すべきではないか。

A ポスターは作っていないが周知に努めたい。

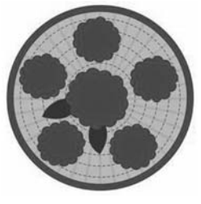


シルバー人材運営支援事業

【大類好彦】

Q 65歳定年が進む中、シルバー人材センターの会員は減少傾向にある。皆さんもいずれは年をとり、関わり合うことになる。もっと支援強化してはどうか。

A シルバー人材センターは、高齢者の生きがいをつくる重要なものと考えている。補助金として750万円のほか運営助成100万円、物価高騰支援として10万円をプラスしている。今後とも花笠作りなど実情に合わせて事業に協力していきたい。



高齢者参加促進事業

【畑中和恵】

Q リフト付きタクシー券と思いやりタクシー券の使用率について伺う。

　どちらも交付枚数は多いのに実際の利用が少ない。思いやりタクシー券が足りないという声もある。内容の見直しの必要は。

A 使用率向上に向けて、今後、AIデマンドタクシー「のらっしゃい」とも連携した取組が行えるよう関係課と調整する。

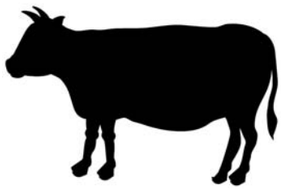


尾花沢牛振興協議会負担金

【髙橋隆雄】

Q 尾花沢牛振興協議会負担金事業の取扱指定店応援事業は何店舗か。どういった支援か。

A 取扱指定店は115店舗で、取扱指定店応援事業を活用した店舗は12店舗である。尾花沢牛及び雪降り和牛尾花沢の販売促進を目的に経費の一部を助成するもので、助成率は対象経費の2分の1、上限5万円としている。



小学校統合推進事業

【安井一義】

Q 校章デザイン選考はどのようであったか。校歌の進捗状況は。

A 校章デザインは応募8点より5点選定後、子ども達より投票で決定。校歌については、作詞は山口齊氏に依頼し完成している。作曲については今後候補者の決定を行い進めていく。

避難所機能強化等推進事業

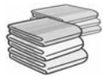
【菅野喜昭】

Q 指定避難所用毛布を1000枚、206万2500円で購入しているが、どこに備蓄しているか。

A 1000枚すべて玉野公民館に配備している。

Q これまで指定避難所用毛布は、どこに何枚備蓄しているか。

A 全部で約8700枚。内訳は、サルナート研修棟に　約4800枚、玉野地区公民館に令和7年度分含め約2700枚、市役所防災倉庫に約500枚、その他約700枚を消防本部、各地区公民館、各小学校等に配備している。



道路・橋梁の維持費

【和田　哲】

Q 道路維持費中、委託料の不用額が7191万円。また、橋梁維持費中、工事請負費の不用額が1258万円となっている。それぞれの要因について伺う。

A 道路については、主に除排雪・雪下し業務委託料であり、3月末までの降雪の可能性を鑑みると減額が難しい。橋梁については、令和6年度の繰越事業を清算した結果であり、制度上減額が出来ないため、それぞれ不用額が発生した。



道の駅ねまるの利用者数

【星川　薫】

Q 令和6年度より利用者数3万人の増であり、利益も3千万円程度ある。要因をどう捉え、今後どの様な方向性を持って進めていくのか。

A 東北中央自動車道の開通及びネットワーク形成によるアクセス性の向上、市内主要観光地の集客回復・増加による相乗効果、高速道路から道の駅間のアクセスの優位性と捉えている。今後は、指定管理料の見直しなども含め、公募を行った上で、指定管理者と共に魅力発信に努めていく。



学校林製材加工業務委託料

【菅野修一】

Q 丸太製材の進捗状況を伺う。

A 3事業所で予定数量の450㎥の一次製材は概ね終了した。

Q 設計書による部材発注品目はいかほどあるのか。

A 校舎棟に262、交流棟に243、体育館棟に133、計638品目ある。

Q 内装木材はすべて賄えるのか。

A 現在、点検中であるが、学校林の木材だけで賄うことは困難であると思われる。



次は各分科会報告

第1分科会

税金・財政
くらし・教育
防災・消防など

委員の紹介

委員長　和田　哲
副委員長　星川　薫
青野　隆一
鈴木　清
畑中　和恵
髙橋　隆雄

決算を徹底審査

決算特別委員会には、９月16日に常任委員会を母体とした２つの分科会が設置された。各分科会では、令和７年度決算議案について詳細な審査が行われ、委員からは活発な質疑や意見が出された。

総務課　地域情報通信基盤整備

地域情報通信基盤整備事業について、詳細な説明を受けこれを了承した。運営費が貸付料を上回っているため、貸付料内での運営に努められるよう要望した。

防災危機管理課　危険空き家等雪下ろし

危険空き家等雪下ろし・除排雪作業業務委託料、及び危険空き家等応急対策作業等業務委託料の内容について詳細な説明があり、これを了承した。

市民税務課　路線バス運行

路線バス運行費について、市内の路線バスや大石田通学線、さらには公立病院線など、年々利用者が減少している現状を踏まえ、乗降場所や利用状況を点検・分析するとともに、ＡＩデマンドの普及も含めた新たな公共交通機関の再編について要望した。



総合政策課　総合振興計画後期基本計画

総合振興計画後期基本計画策定業務委託料について、業者選定は、前期の策定に携わった事業者を選定し、評価・見直しを行いながら取り組んだ旨の説明を受け、これを了承した。

定住応援課　ふるさと納税基金事業

ふるさと尾花沢応援基金の使途について、市の負担軽減のため、活用事業の選定等関係課と協議の上、有効に活用されるよう要望した。

消防本部　協議会負担金

北村山消防指令事務協議会負担金の内容、北村山消防指令センターへの人員等の配置について詳細な説明を受け、これを了承した。

こども教育課　寺子屋に係る経費

寺子屋に係る経費については、他課との協同事業であり、需用費のみを支出しているとの説明を受けたが、保護者からの評価も高く、予算を確保の上、継続して開催されるよう要望した。

社会教育課　施設使用料

芭蕉、清風歴史資料館、文化体育施設、学習情報センターの使用料について説明を受け、これを了承した。

社会情勢や、市民の利用しやすさの観点から、入館料や減免基準の見直しについて要望した。

統合小学校建設課　建設工事内容

建設工事の内容等について、詳細な説明を受け、これを了承した。令和10年度の統合小学校開校に向け、引き続き業務を遂行されるよう要望した。

第2分科会

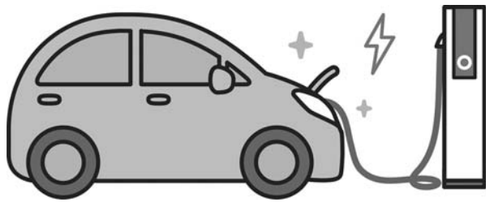
福祉・農業
産業・道路
保健・医療など

委員の紹介

委員長　菅野 喜昭
副委員長　大類 好彦
菅野 修一
伊藤　浩
安井 一義
鈴木由美子
菅藤 昌己

環境エネルギー課　道の駅尾花沢の電気自動車用急速充電器保守委託料

急速充電器保守委託料は市で負担しているが、指定管理者が負担するよう検討を要望した。



健康増進課　生涯元気づくりポイント事業

利用者の利便性向上を図るため、ポイントカードを電子化するよう検討を要望した。

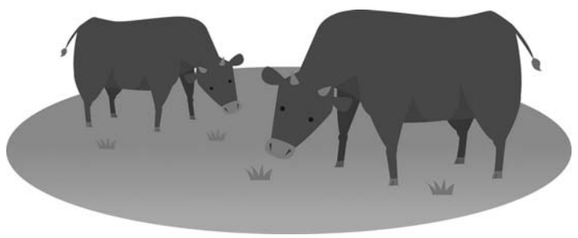


建設課　道の駅尾花沢の電気基本料金

電気自動車用急速充電器の電気基本料金は、経営利益が増加したため、指定管理者が負担することができないか検討を要望した。

農林課　畜産業費

畜産業振興のため、将来的な運営方針の下で、宝栄牧場の環境整備が適切に行われるよう要望した。



商工観光課　高齢者買物支援業務

実利用者数が少なく、民間事業者等による買い物支援の取り組みも充実してきていることから、見直しも含め事業の再評価を要望した。

中央診療所　国民健康保険特別会計

中央診療所施設勘定

中央診療所について、公的な医療機関としての取り組みを果たすため、新たな役割についての検討を要望した。

福祉課　介護保険特別会計

業務効率化とペーパーレスのため、介護認定審査会の資料の電子化を要望した。

次は議案一覧・広域組合議会の報告

令和８年９月定例会　議案一覧

	議案番号	審議した議案等	審議結果
令和７年度決算	認第１号	令和７年度尾花沢市一般会計歳入歳出決算認定について	認　定（全会一致）
	認第２号	令和７年度尾花沢市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	
	認第３号	令和７年度尾花沢市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	
	認第４号	令和７年度尾花沢市後期高齢者医療保険特別会計歳入歳出決算認定について	
	認第５号	令和７年度尾花沢市簡易水道事業会計決算認定について	
	認第６号	令和７年度尾花沢市農業集落排水事業会計決算認定について	
令和８年度補正予算	議第55号	令和８年度尾花沢市一般会計補正予算（第３号）	可　決（全会一致）
	議第56号	令和８年度尾花沢市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	
	議第57号	令和８年度尾花沢市介護保険特別会計補正予算（第１号）	
	議第58号	令和８年度尾花沢市後期高齢者医療保険特別会計補正予算（第１号）	
	議第59号	令和８年度尾花沢市簡易水道事業会計補正予算（第１号）	
条　例	議第60号	尾花沢市職員の自己啓発等休業に関する条例の設定について	
	議第61号	尾花沢市デマンド交通の管理及び運営に関する条例の設定について	
一般議案	議第62号	市道路線の廃止について	
追加議案	議第63号	令和８年度尾花沢市一般会計補正予算（第４号）	
	議第64号	尾花沢市旧学校体育施設使用料条例の設定について	可　決（賛成８反対４）

議第64号　賛否が分かれた議案の採決結果　　賛否状況（○…賛成、×…反対）

青野隆一	伊藤　浩	鈴木由美子	鈴木　清	大類好彦	菅藤昌己	畑中和恵	髙橋隆雄	安井一義	菅野喜昭	和田　哲	星川　薫	菅野修一
×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	議長

◇令和８年度　主な補正予算

徳良湖温泉施設整備・修繕事業

687万円（商工観光課）

徳良湖温泉の施設内部の設備及び施設付随設備の更新を図る。



福祉灯油購入助成事業

600万円（福祉課）

低所得世帯の各期間の経済的負担を低減し、生活の安定を図るもの。



除排雪委託料

2億5,000万円（建設課）



冬期間の道路交通を確保し、産業経済活動の安定と市民生活の安全安心を図るもの。

上水道負担金（水道料減免分）

565万円（環境エネルギー課）

物価高騰により影響を受けている市民及び事業者に対し、水道基本料金免除を1カ月延長するもの。



広域組合議会の報告

北村山公立病院組合議会

（第２回定例会）

北村山公立病院組合議会は、第２回定例会を７月30日東根市議場で開催し、令和７年度事業会計決算を原案通り認定し、閉会した。

概　要

令和７年度は、１億3139万円の純損失を計上した。未処理欠損金は、累計48億9581万円となった。これは人件費増や物価高騰などが影響した。

利用状況は、入院患者数が延べ７万9351人（前年度比、1483人増）外来患者数が延べ９万8372人（同4172人増）だった。

令和７年度３市１町の負担金額

市町名	負担金
東 根 市	７億4,590万円
村 山 市	４億1,257万円
尾花沢市	**１億9,894万円**
大石田町	8,950万円

尾花沢市大石田町環境衛生事業組合議会

令和８年10月１日（木）午前９時より水道・衛生両常任委員会の所管事務調査を開催し、２つの計画の進捗状況報告がなされた。

１新水道ビジョンについて

昭和42年創設の水道事業は、人口減少や施設老朽化の課題に直面しており、将来も安全で良質な水を供給するための新ビジョンを計画中。今後上下水道委員会、幹事会等への説明・パブリックコメント・委員会からの答申・議会への説明を経て令和９年３月策定完了を目指す。



２ごみ処理施設建設工事コスト低減策の概要

(1)施設全体のコンパクト化
(2)発電や温水プール等付帯設備の削減
(3)ごみ焼却・リサイクル・管理棟を合棟による集約化でコスト削減方針

総務文教常任委員会行政視察

１令和８年８月４日（火）
愛知県小牧市「こまきこども未来館について」

多世代交流を促進するための施設整備・空間づくりの工夫」「子供の居場所づくりとしての具体的な事業内容や運営体制」の双方について、先進事例を視察した。

２令和８年８月５日（水）
愛知県豊田市「スマート窓口支援システム構築・ＬＩＮＥ行政サービスについて」

デジタル技術の活用を基本とし、データを活用・連携できる事務環境へ転換している先進事例を視察した。

３令和８年８月５日（水）
愛知県日進市「生成ＡＩを活用した一般行政事務の効率化・ＤＸについて」

議会対応や文書作成などの一般行政事務で生成ＡＩを試行導入し、職員の多くが業務時間の短縮と効率化に取り組んでいる先進事例を視察した。


日進市での視察状況

次は８人の議員はこう質した！

8人の議員はこう質した！

令和8年
9月定例会
一般質問

星川 薫	① **市長の選挙公約**
髙橋隆雄	① **新市長の市政展望** 2 これまでの政策は
鈴木由美子	① **賑わいと交流の場の創設** 2 除雪しやすい道路管理
伊藤 浩	① **今後の市政運営** 2 地域ぐるみの鳥獣被害対策
青野隆一	1 今後の財政運営 2 ふるさと納税 ③ **現場最優先の市政運営** 4 奈良県田原本町との友好都市締結を
菅野喜昭	① **徳良湖温泉「花笠の湯」の入浴料金改定後の運営状況**
菅藤昌己	① **林業と生産森林組合の振興と活性化** 2 公共施設の個別施設管理と空き公共施設 3 交流人口、関係人口とふるさと住民登録制度
鈴木 清	① **子どもとSNS・AI利用** 2 第９期介護保険事業計画 3 今後の公共交通計画のグランドデザインを

質問議員が責任を持って原稿を作成しています。

問 選挙公約をどう進めるのか

答 既存事業の見直しを積極的に行う



星川 薫 議員

動画はこちら

問 担い手・人手不足の解決はどう図るのか。

答 担い手・人手不足の問題については、人口減少と高齢化が進む尾花沢において、最も深刻な課題の一つであると捉えている。特に、除雪対策や鳥獣被害対策において、その課題が顕著に現れている。除雪対策については、道路除雪においても、間口除雪においてもそれを担う人材が不足していることから、地域内外から人材を集めるための仕組みを構築していく。鳥獣被害対策については、クマ対策をはじめ、市民の生命と財産を守るという行政の基本かつ最も重要な使命のもと、地元猟友会との議論を十分に重ねながら、速やかかつ適切に駆除を行えるよう、体制構築を進めていく。



除雪ドーザとロータリ除雪車

具体性がない
漠然とした答弁
だなー

問 新市長の市政展望について

答 交流と挑戦、笑顔あふれるまちへ



髙橋 隆雄 議員

動画はこちら

問 具体的な政策はどう考えているのか。

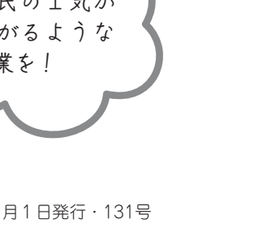
答 尾花沢を「交流と挑戦、そして笑顔あふれるまち」にしていく。本市が輝き続けるための鍵は、この地で新たな挑戦を増やし、これまで以上に、市民同士の、市内と市外との、そして市民と行政との交流を増やし、新たな取り組みの「種」が生まれるよう仕掛け作りが必要である。小さいお子さんからご高齢者まで、気軽に集い、交流し、楽しみ、新たな発想が生まれていくような場や仕掛けを、質・量ともに増やしていく。笑顔で安心して暮らせるよう特に、除雪対策・空き家対策・鳥獣被害対策に取り組む。

道路除雪においても間口除雪においてもそれを担う人材不足であることから、地域内外から人材を集める仕組みを構築していく。

危険な空き家は速やかに撤去し、移住可能な空き家はスムーズに流通に乗せられるようにし、本市の不動産全般を扱う組織的体制を整えていく。

鳥獣被害対策については市民の生命と財産を守るという行政の基本かつ最も重要な使命のもと、地元猟友会と議論を十分に重ね、速やかかつ適切に対策構築を進めていく

空き家、空き校舎の活用は今後の課題



問 空き施設を活用した交流の場づくりとは

答 財政状況を考え既存施設を総合的に検討する

問 空き店舗や空き家を利用して、子育て支援センターを街中に設置出来ないか。

答 必要性は理解しているが、大型事業が重なり、費用を抑えるため徳良湖基幹集落センター内に設置している。

問 子育て支援センターと徳良湖の「おがぁ～れ」の位置づけは違う。子育て中の親子が集い相談し合う場所なので、大型遊具など必要ないのでは。

答 これから時期を見極めて、課題に対して検討していく。

問 パレットスクエア跡地は土地購入済なので早急に活用すべきだ。活用の方向性は。民間事業者などの誘致を積極的に進めて頂きたい。

答 官民連携も視野に、市民の意見も取り入れビジョンを定める。

問 市民新春祝賀会は市民参加型にすべきでは。

答 令和９年１月から２部制とする。会場レイアウトを見直し、第２部では参加者同士が懇親を深められるようにする。



店舗の駐車場を活用した「OBANAZAWA night FESTA」



鈴木由美子 議員

動画はこちら

市民の士気が
上がるような
事業を！

問 市政の目標を明確に示して!!

答 市民が理解できる市政にする



伊藤 浩 議員

動画はこちら

100年後の尾花沢を見てみたい。天国から!

問 「おばなざわを100年先へ、つなぐ」の意味について市民の方から聞かれることがあるが、私は「100年後も尾花沢市が一つの自治体として存続している事だ」と理解している。この為に重要と考える政策を3点に絞って挙げて欲しい。

答 「交流と挑戦を増やすための政策」「『稼げる』まちにしていくための政策」「笑顔で安心して暮らし続けられるための政策」の3点である。

問 大型事業が計画される中、これからの維持可能な財政運営のための基本的な考え方はどうか。

答 起債事業に関しては、国庫補助金や有利な地方債を積極的に活用し、実質的な将来負担を極力減らしていきたい。併せて毎年度の予算運営を滞りなく行う観点からも、既存事業の見直しを積極的に行い、持続可能な財政を構築していく。そのために各部署や関係者とのコミュニケーションを重ねながら検討して行きたい。



100年後の姿は？

問 現場最優先の市役所にして

答 自分から現場へ走っていく



青野 隆一 議員

動画はこちら

解決策は机の上ではなく、現場に行くことだ。

問 市長が移動する市役所（出かける市役所）を実現し、市民の声を聞く市政に変える考えはないか。

答 私は、スーパーなどでも対話の場を広げ、自らの足で現場へ走っていくなど、現場最優先の市政運営を行いたい。

問 10年先を見据えた積極的な地域支援策を打ち出すため、他の自治体のように担当を市民税務課から総合政策課に移すべきではないか。

答 まずは、区長や市民の皆さまの声に耳を傾け、迅速な課題解決や地域支援につなげたい。そのうえで、事務局の変更等も含めて検討する。

問 空き家対策に対する窓口の一元化はいつから実施するのか。

答 組織・人事の新設や異動等を考慮し、出来る限り早期に実施したい。

問 山形県内では、15自治体139人の集落支援員が活躍している。学校閉校後の地域活性化を図るため、来年度から導入してはどうか。

答 学校統合をはじめ、地域を取り巻く環境が大きく変化している。市民の皆さまの想いや地域ごとのニーズを伺いながら進めたい。

令和７年度山形県内専任集落支援員設置状況　総務省資料

順位	自治体名	人数	順位	自治体名	人数
1位	川西町	29人	5位	舟形町	11人
2位	長井市	26人	6位	飯豊町	10人
3位	西川町	17人	7位	白鷹町	9人
4位	米沢市	12人	8位	庄内町	6人

※一人当たり上限500万円の特別交付税措置が講じられる

問 徳良湖温泉の入浴料を同額に

答 魅力向上で利用拡大したい



菅野 喜昭 議員

動画はこちら

赤字を減らす経営改善！頑張れ

問 令和7年度の「花笠の湯」の経常利益が、令和6年度に比べ、約570万円減少している。令和7年4月から入浴料を、大人400円から「市内」450円、「市外」500円に値上げしているにもかかわらず、売上げが減少している理由（原因）と今後の対策は。

答 売り上げ減少の主な原因は、周辺公営浴場に先行して改定を行った影響に加え、アウトドア利用者の減少と分析している。

今後の対策としては、施設独自の魅力向上と徳良湖エリア全体の連携強化により利用拡大を図っていきたい。

※要 望

「市内」450円と「市外」500円に区分するのは、差別化するようで個人的には良しとしない。そしてまた、それぞれに値上げした結果、値上げする前よりも売上げが減少していることを重く受け止め、もっとしっかり分析する必要がある。

市外のお客さんもつぶやいておられるようだが、個人的にも入浴料は450円の同額にしたほうが良いのではないか。



券売機の市内外の料金

問 林業の活性化について

答 木材の利活用を模索していく



菅藤 昌己 議員

動画はこちら

山は、防災、気候変動緩和等、重要な役割。真心こめて植樹を…

問 本市の林家の数と林業活性化方策について伺いたい。

答 本市の林業経営体は、7経営体である。その面積は、民有林1万307ha、国有林が1万6207ha、計2万6514haある。国有林と民有林が一体となった取り組みが必要である。

問 本市の林も伐期（ばっき）が来ている山が多くある。伐採する箇所をまとめるコーディネーターの配置や場所によっては道路の整備も必要でないか。

答 伐期のきている山は多いと認識している。伐採林をまとめてコストを下げることは必要である。森林組合と協議し林業の推進と活性化を図っていく。

問 木造住宅の新築数及びリフォーム数、職員のネームや公共施設の表札など本市の木材の積極的な利用や助成をしてはいかがか。

答 新築数は、令和5年から7年までの3年間で30件。リフォーム数は819件となっている。

県産木材を利用した補助実績については、令和5年から7年まで各1件ずつの計3件である。

県産木材を活用した建築が少ない。なかんずく本市木材の利活用の方策を検討していく。



問 AI時代、どんな人間力を育むか

答 「自ら考え判断する力」を育成する



鈴木　清 議員

動画はこちら

問 AI（人工知能）が、目覚ましい勢いで発展し、海外では年齢による一律禁止の動きがある。子どもたちがネットトラブルを避け、SNSを安全に使うため、どのような指導をしているか。

答 児童生徒に道徳の授業などを通じ、情報モラル教育を実施し、保護者への啓発や外部講師の講演会などを開催している。

問 SNSの年齢制限・利用時間規制についてどのような考えか。

答 利用規制まで考えていないが、家庭や学校での自主的なルールの設定や端末の利用制限を推進している。（小学生は、21時から6時半、中学生は22時から6時半まで使用しないなど。）

問 学校教育での生成AIは、どのようなことに注意して学習に使っているか。またAI時代にどんな人間力を育もうとしているか。

答 学びの質の向上を確認しながら、個人情報の保護や著作権への配慮といった注意点を徹底している。自ら考え、判断する力・コミュニケーション力・学び続ける力の育成を図っていきたい。「尾花沢市小・中学校での生成AI利活用ガイド」を策定している。

子ども達には豊かな感情と人間らしさを育んでほしい

尾花沢市PTA連合会

共同宣言

1 ネット依存　2 いじめ等のトラブル　3 ネット被害　4 犯罪の加害者

傍聴者の声



傍聴された方の人数

日　付	人数
9月7日	2人
9月11日	11人
9月14日	34人
9月30日	0人
合　計	47人

市長と議員の立場は違いますが、尾花沢を何とかしなければと思う考えは伺えます。
ただ意見としてだけでなく議員自身の考え方も主張してよいのではと思いました。

質問する内容がわかりやすく、再質問も良かった。
継続して一つ一つの質問がどのように進められていくのか注目してみます。

市長の答弁が、はきはきして分かりやすかった。

これから新市長には高齢者等の福祉事業に関して、これまでのリスク対策の施策から変革が必要なのではと考えます。

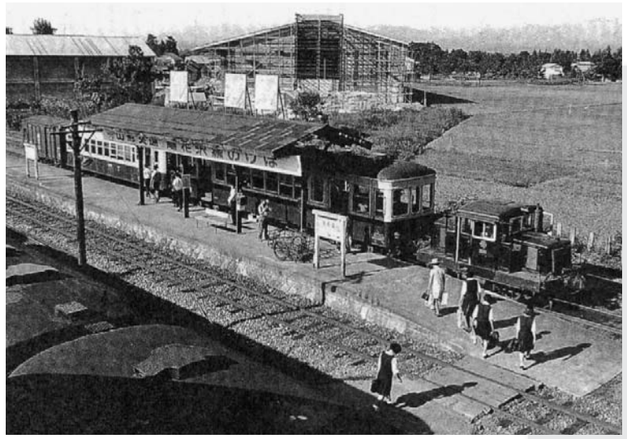
12月定例会の一般質問は12月4日、7日の予定です。ぜひ議場に傍聴にいらしてください！

おばなざわ 温故知新

第2回 公共交通を考える

①尾花沢鉄道“鉄道の時代”

1926（大正15年）－1970（昭和45年）



◀平成10年6月15日の市報より抜粋

昭和45年９月９日、開通以来45年間にわたって走り続けた尾花沢鉄道がその長い歴史に幕を閉じた。尾花沢鉄道は、大正15年に地元の有志により尾花沢鉄道株式会社として発足、その後昭和18年に戦中の国策により山形交通に吸収された。本市と奥羽本線大石田駅を結ぶ唯一の支線鉄道で、通勤や通学者の欠くことのできない足として多くの市民に愛された。走行区間 2.6 kmで１日16往復、１日平均1,700人余りが利用した。

産業を支えた尾花沢鉄道 “鉄道の時代”

Q１　尾花沢鉄道を知っていますか。

Ａ１　昭和45年廃線なので知っている人は60才代後半以降の方々になっていますが、尾花沢・大石田駅間の２．６Km の通学通勤、米・木材・石炭など尾花沢の産物の輸送に寄与しました。徳良湖築堤により、米の収穫が数倍になり、その収納のため倉庫と輸送が尾花沢鉄道に求められました。

Q２　どうして廃線になったのですか。

Ａ２　鉄道は冬期間の除雪の問題があり、一冬除雪に200人を費やしました。また、国道13号をはじめとする道路整備が進み、新庄～山形間で30分おきの特急バスが走り、鉄道利用客は減少の一途をたどり廃線につながりました。



開通後100年

【残っている尾花沢鉄道】

大石田駅尾花沢口に当時使用の車輪が残っています。

《今後掲載予定》

②山交バス“バスからマイカーへ”

③AIデマンド交通